

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会会）

教育部会名：人間形成と思想

部会長名：大坪庸介

作成者名：大坪庸介

概要（2000字）

（1）組織・運営について

平成28（2016）年度の本教育部会は、大学教育推進機構3名、人文学研究科10名、国際文化学研究科1名、人間発達環境学研究科18名、保健学研究科4名、海事科学研究科1名、の計37名から構成され、教育部会長1名（人文学研究科）、幹事2名（人間発達環境学研究科、国際文化学研究科）が世話役になり、運営された。

（2）実施状況について

・開講科目、カリキュラムなど

基礎教養科目として「哲学」（4コマ）、「倫理学」（4コマ）、「論理学」（5コマ）、「心理学A」（10コマ）、「心理学B」（8コマ）、教育学A（6コマ）、教育学B（3コマ）の計7科目40コマ、総合教養科目として「科学技術と倫理」（4コマ）、「教育と人間形成」（3コマ）の計2科目7コマ、専門教養基礎科目として「論理学S1・S2」（各2コマ）、「心理学S1・S2」（各2コマ）、「心と行動」（2単位1コマ）の5科目10コマ分、全体で14科目57コマが開講された。

「哲学」、「倫理学」、「論理学」、「科学技術と倫理」は人文学研究科の教員と5人の非常勤講師により、「心理学A」、「心理学B」、「心理学S1・S2」、「心と行動」は大学教育推進機構、人文学研究科、国際文化学研究科、保健学研究科の教員により、「教育学A」「教育学B」、「教育と人間形成」は大学教育推進機構と人間発達環境科学研究科の教員により行われた。

・今年度の工夫・改善点

今年度からクォーター制が導入され、科目の特性に応じて1単位科目にするか、従来の2単位分をAとBの大きなカテゴリーの2つに分けて授業を実施した。その結果、授業内容がこれまでよりも整理されたものになった。例えば、心理学では実験系の心理学を心理学Aとし、発達・臨床系の心理学を心理学Bとした。教育学については、教育学の導入的内容を教育学Aとし、現代の教育問題などを扱うものを教育学Bとした。これにより、AとBを独立に履修することも可能であるし、A・B両方を履修しても内容に重複がないようにした。かつ、AからB、BからAのいずれの順序で履修しても問題が生じないようになっている。その一方、従来2単位科目であった哲学は半分の1単位科目になっているが、従来は教養原論に含まれていなかった倫理学を新設したことにより、従来は哲学の中で扱われていた倫理学の内容を独立させることになった。これも、独立した履修、履修順序の問題が生じないように工夫されている。

・現状と評価

「人間形成」に関わる問題を多角的に取り上げ、人間形成のありようと思の意義について、基礎教養科目として①哲学・思想領域（哲学・倫理学・論理学）、②心理学領域（心理学A・心理学B）、③教育学領域（教育学A・教育学B）から学習できるように教育課程が編成されており、基礎教養科目人文学領域の学習目標に沿った講義を提供している。また、総合教養科目として「科学技術と倫理」、「教育と人間形成」という現代的な問題を扱う科目を提供し、現代的なニーズにもこたえるよう配慮した科目配置となっている。つまり、人間形成と思想教育部会は期待される教育内容をカバーする科目を提供している。また、多くの科目が100人以上の大教室の講義となっていることから、学生にも重要な教養科目として認識されているものと考えられる。

(3) 課題について

第1の課題は学生のモチベーションである。従来、1年生の前期が希望によらずにクラスに割り振られていたため、モチベーションの低い学生が教室に存在することが問題となっていた。今年度からクォーター制の導入により、第1クォーターに1年生が基礎教養科目、総合教養科目を履修しないカリキュラムとなり、モチベーションの問題は大幅に解決されたと考えられる。しかし、第一希望科目の収容限度200名にもれた学生が第二希望以下の科目に入っているという問題はいまだ残っており、このような学生への対応が今後の課題と言える。

第2の課題として大教室での授業の難しさが挙げられる。近年、大教室であっても学生参加型の授業の実施が求められているが、ほとんどのクラスが100名以上の人間形成と思想教育部会では、必ずしもすべての授業が学生参加型にはなっていないのが現状である。もちろん、これまでも各担当者においては、VTR、DVD、パワーポイント等の視聴覚教材の使用、リアクションペーパーやミニレポートとそれに対するフィードバックなど学生の参加を促すための努力がなされているが、大教室でいかにして十分な学生参加を実現するかが本部会の第2の課題である。

第3の課題としてカンニングなどの事案の発生しない厳格な試験の実施が挙げられる。人間形成と思想教育部会の試験においてカンニングなどの憂慮すべき事案はH28年度に発生していない。しかし、ほとんどの講義が100名以上の履修者を抱える当部会の授業において、厳格な試験の実施のためには履修者を2つ以上の教室に分けての試験実施が必須と言える。しかし、利用可能な教室数の制限などもあり、必ずしもすべての講義科目において複数試験室での試験実施が実現されていないのが現状である。可能な限り複数受験室での試験の実施が必要と考えられる。

(4) 総合所見

全体として人間形成と思想部会の講義は必要とされる科目をバランスよく提供しているということができる。H28年度はクォーター制導入の初年度ということで多くのカリキュラムの変更を行ったが、概ね期待通りの教育成果をあげたと考える。今後の課題としては、希望したクラスの抽選にもれて履修している学生のモチベーションをどのようにあげていくか、大教室授業でどのように学生参加を実現するか、大人数の授業での厳格な試験の実施をどのように実現するかの3点である。

教育部会自己点検・評価シート（様式1）

項目・観点ごとの記述

基準5 教育内容及び方法

5-1 【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められ、それに基づいて教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準が授与される学位名において適切であること。】

5-1-③： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。

観点に係る状況（150字以上）

教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮されたカリキュラムになっている。例えば、各授業で学生とのコミュニケーションペーパーの利用、最近改訂された教書の利用、今日的な内容を扱う映像資料の使用などの工夫がなされている。また、授業中の配布資料も学生のニーズを満たすものである。

根拠資料

自己点検・自己評価シート集計表、シラバス、授業中の配布資料、パワーポイントスライド、神戸大学 Learning Management System (LMS) BEEF 上の資料

5-2【教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。】

5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

観点に係る状況（150字以上）

教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスを適切に保つような工夫をした教育内容、学習指導法が採用されている。人間形成と思想部会が提供する科目は基本的に講義科目であり、その多くが100人を超える大教室科目のため、演習や実験・実習等を取り入れることは難しい。それを補うべく、多くの教員が小テスト、リアクションペーパー及びそれに対する翌週のコメント、簡単なグループワーク課題、映像資料を用いたデモンストレーションの実施などの工夫をしている。

根拠資料

シラバス、授業中の配布資料、回収した小テストなど

5-2-②： 単位の実質化への配慮がなされているか。

観点に係る状況（100字以上）

単位の実質化への配慮として、多くの教員がレポート課題の導入、小テストの実施、独自の授業アンケートの実施、試験対策演習の実施を通じて学生の理解を確実なものにするように講義を行っている。このような工夫により、それぞれの講義で各学生が講義の達成目標に到達しているかどうかははかられ、単位の実質化がなされている。

根拠資料

自己点検・自己評価シート集計表、シラバス、回収したレポート・小テストなど

5-2-③： 適切なシラバスが作成され、活用されているか。

観点に係る状況（50字以上）

人間形成と思想教育部会が提供するのには主に基礎教養科目であるが、これらについては同一名称科目のシラバスの授業テーマ・目標を共通なものにしており、授業内容を反映した適切なシラバスが作成、活用されている。総合教養科目・共通専門基礎科目でも、講義内容を反映したシラバスが作成され、活用されている。

根拠資料

シラバス

5-2-④： 基礎学力不足の学生への配慮等が行われているか。

観点に係る状況（100字以上）

いずれの講義においてもオフィスアワーがシラバスに明記されており、講義についていくことに困難を感じた学生はいつでも担当教員に連絡をとり、配慮を受けることができる状態であった。また、授業後の感想やコメントなどを通じて、配慮の必要性の把握に努めた。

根拠資料

自己点検・自己評価シート集計表、シラバス、回収したコメントなど

5-3 【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められ、それに照らして、成績評価や単位認定、卒業認定が適切に実施され、有効なものになっていること。】

5-3-②： 成績評価基準が策定され、学生に周知されており、その基準に従って、成績評価、単位認定が適切に実施されているか。

観点に係る状況（100字以上）

人間形成と思想教育部会においては、科目ごとに内容に即した成績評価基準が策定され、それがシラバスを通じて学生に周知されている。授業中に実施する小テストや課題、期末試験など結果により、周知された基準に即して適切に成績評価、単位認定が適切に実施されている。

根拠資料

シラバス、配布資料

5-3-③： 成績評価等の客観性、厳格性を担保するための措置が講じられているか。

観点に係る状況（100字以上）

人間形成と思想教育部会においては、上記5-3-②の通りに成績評価の基準を策定し、単位認定を行っている。その客観性、厳格性を担保するために、小テストや期末試験は不正行為がないように厳正になされ、採点も厳密になされている。

根拠資料

自己点検・自己評価シート集計表、成績分布

基準6 学習成果

6-1 【教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。】

6-1-②： 学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して、学習成果が上がっているか。

観点に係る状況（100字以上）

学生による授業評価の結果として総合評価を見ると、多くの科目で5点満点中平均4点以上の総合評価が得られており、各科目における学習成果が上がっていると考えられる。また、学生からのコメントを見ても、おおむね講義に対する理解度を含めた好意的な感想がよせられている。

根拠資料

自己点検・自己評価シート集計表、授業振り返りアンケート結果

基準7 施設・設備及び学生支援

7-1 【教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用され

ていること。】

7-1-④： 自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

| |
|--|
| 観点に係る状況（50字以上） 神戸大学として自主的学習環境が十分に整備されており、学生は自学自習にその環境を効果的に利用している。 |
| 根拠資料 全学で把握している自学自習スペース利用状況等 |

7-2【学生への履修指導が適切に行われていること。また、学習や課外活動等に関する相談・助言、支援が適切に行われていること。】

7-2-①： 授業科目のガイダンスが適切に実施されているか。

| |
|--|
| 観点に係る状況（100字以上） 人間形成と思想教育部会においては、第1回目の講義の中で、シラバスの内容を含め、当該講義の内容、スケジュール、講義で課される試験や課題の内容、成績評価基準を学生に伝達しており、これがガイダンスとして機能している。 |
| 根拠資料 自己点検・自己評価シート集計表、配布資料、授業で持ちたいパワーポイントスライド |

7-2-②： 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており、学習相談、助言、支援が適切に行われているか。
また、特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり、必要に応じて学習支援が行われているか。

| |
|--|
| 観点に係る状況（100字以上） いずれの講義においてもオフィスアワーがシラバスに明記されており、講義についていくことに困難を感じた学生はいつでも担当教員に連絡をとることができた。このことを周知することにより学生のニーズが適切に把握されていた。 |
| 根拠資料 自己点検・自己評価シート集計表、シラバス |